

御幸学区まちづくり推進委員会

委員長 井上 誠

(問合せ先) 084-955-0392 (御幸交流館)

## 事業内容

御幸学区のまちづくりを推進する  
ロゴマーク 愛称「みゆきちゃん」

- ( 1 ) 安心・安全推進事業
- ①防災訓練 11月26日(日) @御幸小学校
  - ②下校ボランティア活動 通年 学区内全域
  - ③防災・減災啓発活動 8月22日(火) @御幸交流館
  - ④安心・安全啓発活動 2月28日(水) 学区内2か所 啓発横断幕の設置
- ( 2 ) 福祉啓発事業
- ①「ニコニコ訪問活動」 通年 学区内 あいさつや安否確認
  - ②講演会・交流会 10月28日(土) 3月16日(土) @御幸交流館
  - ③フードたすけあいネット活動 11月23日(木)～11月25日(土) @御幸交流館
  - ④男の料理教室 1月27日(土) @御幸交流館
  - ⑤「ちょっとした困りごと」相談支援活動 通年
  - ⑥視察研修 9月19日(火) 笠岡市社会福祉協議会
  - ⑦「みゆきよりみちかふえ」運営活動 年5回 @御幸交流館、柳原集会所、福山平成大学
- ( 3 ) 絆づくり事業
- ①御幸町盆踊り大会 8月5日(土) @御幸小学校
  - ②三世代ふれあいグラウンド・ゴルフ大会 9月17日(日) @御幸小学校
  - ③第42回町民文化祭 11月23日(木)～11月25日(土) @御幸小学校・御幸交流館ほか
  - ④みゆき百選スタンプラリー 11月25日(土) 森脇地域
  - ⑤ばら育成活動 通年 ばら接木講習会 ばら剪定講習会 つるばらの仕立て講習会 花壇整備
  - ⑥三世代交流折り紙ヒコーキ教室 11月11日(土) @御幸小学校
  - ⑦みゆき子ども文庫 本の貸し出し・読み聞かせ 毎週土曜日 イベント 年4回 @御幸交流館
  - ⑧「ふくやま東部文化フェスタ2024」ステージ・展示 3月3日(日) @東部市民センター
  - ⑨ふるさと再発見活動 毎月1回 @御幸交流館
  - ⑩環境美化啓発活動 通年 学区内
- ( 4 ) 広報事業
- ①ホームページ運営活動 通年 @御幸交流館
  - ②広報紙発行活動 「みゆきレポート」69・70・71・72号発行
  - ③あいさつ運動 小学校5・6年生の応募により新デザインの幟旗作成、自治会・町内会で掲示
  - ④福山明るいまちづくり協議会協賛活動
- ( 5 ) コミュニティ育成事業 自治会(町内会)単位によるコミュニティ育成活動
- ( 6 ) まちづくり推進委員会運営事業 企画調整会議

## 成果

盆踊り大会や文化祭、防災訓練など多くの参加者があり、人々の触れ合いが戻ってきた。小学校・中学校・大学との連携活動が定着してきた。ホームページの投稿を頻繁にすることができた。広報紙をカラー版にし関心を高めることができた。

## 課題

地域課題解決と絆づくりに向け、若い世代の人々とも話し合いを広げ、意義ある事業を工夫・創造していくことが、次年度の大きな課題である。

## 課題解決に向けて

- ・ホームページを活用して積極的にまちづくり活動を発信する。
- ・小・中学校をはじめ大学と連携を強め、多くの住民参加で、絆づくり、高齢者支援、環境美化活動等を推進する。
- ・より多くの人に参加してもらえよう防災訓練・文化祭等の企画について、住民の意識共有を進める。



(文化祭 神楽の上演)

# 御幸学区 HP や広報紙を活用したまちづくり

## HP の継続的な更新活動



(HP のトップページ)



(掲載コンテンツ一覧)

HP の名前は「みゆきまちづくり」です。  
右の QR コードから  
見るすることができます。



御幸学区まちづくり推進委員会の HP は、1年間の準備期間を経て、2022年4月に開設し、まちづくり推進委員会の役員が基本的に毎週1回更新活動を行っています。

HPには、まちづくり推進委員会や各自治会(町内会)、各種団体の活動を紹介しています。また各種の回覧情報も掲載しています。

掲載情報は、関係団体から提供を受け、継続しやすいようにきわめて簡略化した投稿マニュアルで更新しています。

3月末で延べ約31,000件のアクセスがありました。小学校では児童の調べ学習にも活用されています。

## カラー版広報紙(まちづくり活動報告)の発行活動



(最新号の1ページ目、基本的に4ページで発行しています。)

御幸学区まちづくり推進委員会では、過去十数年にわたってまちづくり推進委員会の活動を学区住民に紹介するために広報紙(「まちづくり みゆきレポート」)を毎年4回(6月、9月、12月、3月)、総務・広報部会が編集し発行してきました。

しかし、従来の白黒印刷ではどうしても写真やカットなど、紙面のアピールに難がありました。

そこで、2022年の67号から思い切ってカラー版化しました。住民の方々から、「きれいになった。」「見栄えが良くなった。」「よくわかる。」などの声が出ています。

今後もいっそう住民の皆様が親しんでいただくよう内容やレイアウトの改善に取り組んでいきます。